

BUSINESS REPORT

第91期

第2四半期 株主通信

2023年4月1日 ▶ 2023年9月30日

CONTENTS

- P 1 トップインタビュー
- P 5 連結財務ハイライト
- P 6 セグメント別データ
- P 7 株主様アンケート結果
- P 9 新製品のご紹介
- P 10 会社概要／株式情報
- 裏表紙 株主メモ／株主優待情報

新たな商品で 市場の活性化に貢献し、 持続的成長を実現していきます。

代表取締役社長

木村 成克



Q1

社長就任初年度、
どのような想いで経営に臨んでいますか？

今年6月に代表取締役社長を拝命し、塩水港精糖という歴史ある会社で経営の陣頭に立つこととなりました。私は、2005年より大東製糖株式会社の社長を務める一方、2013年に当社の社外取締役となり、2021年からは代表取締役副社長として経営に携わってきました。前任の久野

修慈会長が35年間にわたり築き上げてきた基盤を余すところなく継承しつつ、未来に向けて新たな成長の方向性を打ち出すことが、自らに課せられた役割であると認識しております。

私自身は、仕事に情熱を注いで取り組むことをモットーとしています。経営者として人を動かすことも、お客様に商品をお買い上げいただくことも、情熱があるかどうかで成果が異なってきます。長年在籍した大東製糖は、比較的小

当第2四半期の業績について

売上高	15,566	百万円 (前年同期比 16.3%増↑)
営業利益	546	百万円 (前年同期比 99.3%増↑)
経常利益	1,186	百万円 (前年同期比 384.7%増↑)
親会社株主に帰属 する当四半期純利益	901	百万円 (前年同期比 549.5%増↑)

次期の見通し

売上高	29,200	百万円 (前期比 4.5%増↑)
営業利益	520	百万円 (前期比 16.5%減↓)
経常利益	1,300	百万円 (前期比 77.7%増↑)
親会社株主に帰属 する当期純利益	890	百万円 (前期比 78.6%増↑)

規模な会社であり、その中で幅広く業務に関わりながら、自分の情熱を高めて仕事に向き合ってきました。こうした経験を経営に活かし、当社事業の発展に寄与すべく尽力してまいります。

Q2 会社のあるべき姿と経営課題について お聞かせください。

今、私たち塩水港精糖に求められているのは、砂糖市場の活性化に向けたアプローチです。新たな価値提供や行政との関わり方も含め、長期的な視点で砂糖市場に寄与し、人体の機能維持に欠かせない生活必需品である砂糖の安定供給を支えることが、当社の存在意義です。そしてキャッチフレーズ「おなかにやさしい会社」が示す通り、オリゴ糖をはじめとするバイオ事業の商品を通じて、生活改善や健康増進に貢献することが、当社のもう一つの存在意義となっています。

これらの存在意義に根差した取り組みは、急進的・飛躍的な成長をもたらすものではなく、長期的な安定収益の確保によって企業価値を着実に高めていきます。そこでは、お客様や社会との長期的な関係構築が前提となるため、サステナビリティテーマとの親和性が高い事業展開につながってきます。私たちの事業そのものがサステナブルな価値創造に資する活動であることをしっかり意識して取り組みつつ、その姿勢を社内・社外へ発信し、ステークホルダーの皆様にご理解いただくことが重要だと考えています。

当社にとって最大の経営課題は、砂糖市場の活性化をもたらす新商品の立ち上げです。現在、当社の売上高全体に占める砂糖事業の割合は、9割を超えています。国内の砂糖消費量が漸減し、市場の縮小傾向が見られる中で、私

たちはもちろんバイオ事業を中心とする非砂糖分野の拡大を図っていきますが、やはり事業の基幹である砂糖分野の再成長というテーマを避けて通ることはできません。多くのトライ&エラーを重ねて商品を開発するのではなく、一発必中に情熱を注いだ新商品を投入し、消費者のニーズを捉えながら、需要喚起に向けた市場啓蒙を進めていきます。

そのために必要な対応として、社内の組織体制を整備し、部門間の連携を強化することで、研究、開発、生産、マーケティング、販売といった機能をより有効に発揮させていく方針です。新商品の立ち上げは、大きな労力を要する取り組みですが、当社と砂糖市場の未来を拓くべくチャレンジしてまいります。

Q3 上期の営業状況を振り返り、 今後の見通しをご説明願います。

砂糖事業を取り巻く市場環境は、国内人口の減少や健康志向の高まりなどを背景に、前述の通り砂糖消費量が近年漸減してきましたが、さらにこの3年間はコロナ禍の影響を強く受け、販売数量が大きく低迷する状況となりました。

足もとでは、海外原糖相場の上昇が続き、原油価格の



高騰なども相まって、コスト環境が著しく悪化しています。そうした影響はバイオ事業にも及んでいますが、原料価格が占める割合が大きい砂糖事業においては、利益の圧迫が一層強いものとなっており、価格転嫁の浸透が業績改善のカギとなっています。

この上期を振り返ると、砂糖事業は販売数量が復調を示したものの、まだ回復途上にあり、コロナ禍前の水準には至らず、家庭用・業務用とも想定を下回る実績となりました。一方、価格転嫁は一定程度進展し、前年同期を上回る売上高・利益を確保しました。

バイオ事業は、主力のオリゴ糖部門において人気タレントKKOさんを起用した「オリゴのおかげ」の広告宣伝が奏功し、好調に推移したことから、前年同期比で増収・増益となりました。

以上により上期の連結業績は、売上高155億66百万円（前年同期比16.3%増）、営業利益5億46百万円（同99.3%増）となり、また営業外収益として出資先からの受取配当金6億48百万円を計上し、経常利益11億86百万円（同384.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益9億1百

万円（同549.5%増）となりました。

なお下期の営業状況は、引き続き砂糖販売における価格転嫁の進展とオリゴ糖部門の好調維持を見込んでいますが、円安の加速および原油価格の高騰とともに原料調達・コスト環境のさらなる悪化が予想され、予断を許さない状況となっています。

そのため通期の連結業績については、計画数値を修正し、売上高292億円（前期比4.5%増）、営業利益5億20百万円（同16.5%減）、経常利益13億円（同77.7%増）、親会社株主に帰属する当期純利益8億90百万円（同78.6%増）を想定しています。

Q4

中長期の成長に向けて

どのような戦略を進めていきますか？

砂糖事業は、先にご説明しました通り市場の活性化をもたらす新商品の立ち上げが最重要テーマであり、これを新たな柱として中長期の成長につなげていきます。その実現に向けて、研究、開発、生産、マーケティング、販売といった機能をより有効に発揮させる連携・統合体制を敷き、さらに各機能の拡充も進めながら、相乗効果を図っていく考えです。

バイオ事業は、これまでオリゴ糖部門において、トクホ（特定保健用食品）の取得など機能性を重視した展開を進めてきましたが、今後はライトユーザー層も視野に入れた幅広いニーズへのアプローチへ転換し、市場を大きく拓けていきます。また、3年前からスタートしたビーツ部門は、国内におけるリーディングカンパニーとして市場をさらに拡大・深耕すべく、新たな商材の開発に一層の情熱を注いでいきます。

なお、今年6月に締結した大東製糖との業務提携契約に基づく協業体制は、中長期の成長に向けた今後の事業基盤づくりにおいて、大きな役割を担っていくものとなります。当社と大東製糖は、「ユーモアな食品を提供し、未来を創る会社へ」をテーマに、「新事業・新商品開発」「既存事業強化」「販売体制強化」「さとうの未来を創る社会貢献

活動」の4項目を協業の軸として、それぞれ両社横断による会議体を設け、取り組みを開始しました。

大東製糖は、砂糖にかかわる事業展開のスキームが当社と異なるため、両社の協業においては、言わば「いいとこ取り」によるシナジーの発現が期待できます。相互の人的交流を通じて、企業文化の融和についてもスムーズな感触を得ており、双方の強みを十分に活かした取り組みが可能と思われます。現在、各会議体を中心に仕込みを進めている協業のタネは、来期から順次具体的な形としてお示しできる予定です。

Q5 株主・投資家の皆様に伝えたい メッセージをお願いします。

当社は、利益還元施策を株主・投資家の皆様との長期的な関係づくりの一環と位置付け、安心して当社株式を保有してもらえるよう、安定配当の維持に努めるとともに、株主優待制度を通じて当社商品および事業へのご理解を深めていただいています。当社商品をご愛用されるユーザー株主様・ファン株主様の存在は、私たちにとって大変心強く、その輪をもっと広げて、多くの方々にご支援いただける会社を目指す所存です。

これからも利益還元の拡充と、より満足度の高い株主優待の実施を目指し、また株主様アンケートの実施などを通じて、皆様から寄せられたご意見を経営に反映してまいります。

また今後は、当社グループの中長期的なあるべき姿を策定し、企業価値の拡大と持続的成長の実現に向けた展望を株主・投資家の皆様にわかりやすく具体的にお伝えすべく、準備を進めていきます。

当社は台湾統治下、当時の民政長官後藤新平による教育、衛生を始め、現地の人々の理解と協調を旨としたあらゆる民主統治政策の下、明治37年に創業しました。当社の社名は創業の地、鹽水港庁岸内庄に由来します。当社は来年創業120周年を迎えますが、当社がこの120年間、「台湾近代化の父」後藤新平の遺した「拓殖・協調」の心を受け継いでこられたのも、偏に株主様、お取引先様各位、歴代の諸先輩方を始め、当社を永年に亘り力強くお支え頂いた全ての皆様の温かい御心の賜物と、深く感謝御礼申し上げる次第です。

当社は、後藤新平の心を受け継いだ120年の社名を今後とも大切にし、未来に向け、新たな歴史を刻んで参る所存です。

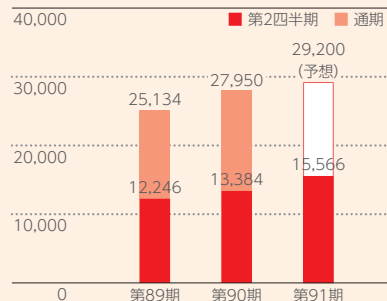
株主・投資家の皆様におかれましては、新たな飛躍を目指す当社の挑戦にご注目いただき、さらなる事業発展へのご期待をもって、引き続き長期的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。



連結財務ハイライト

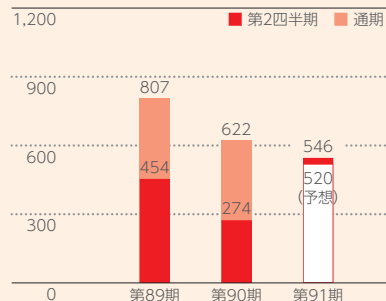
売上高

(単位:百万円)



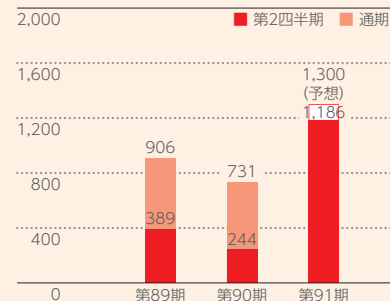
営業利益

(単位:百万円)



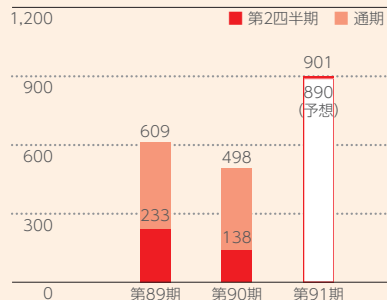
経常利益

(単位:百万円)



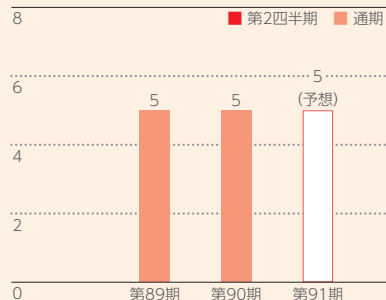
親会社株主に帰属する当四半期純利益

(単位:百万円)



配当金の推移

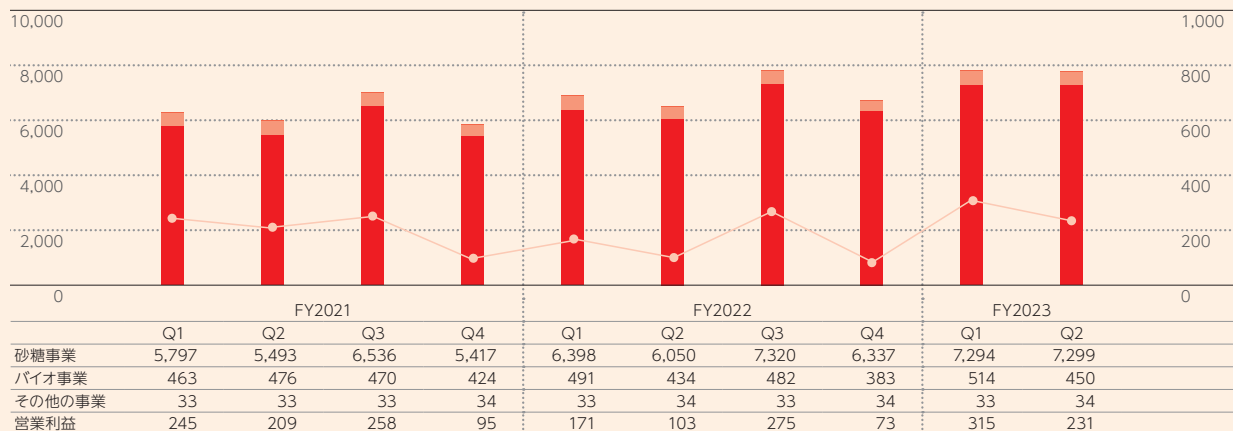
(単位:円)



事業別業績

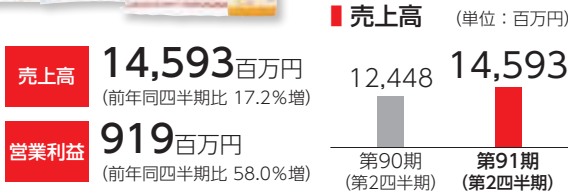
(単位:百万円)

■ 砂糖事業 ■ バイオ事業 ■ その他の事業 ● 営業利益



セグメント別データ

砂糖事業



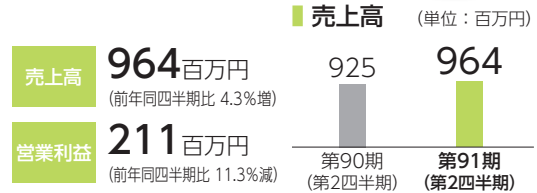
海外原糖市況は、ニューヨーク市場粗糖先物相場（当限、1ポンド当たり）において22.35セントで始まり、期初より原糖の供給懸念を背景とした投機筋による買いで相場の上昇が続き、さらには原油価格の高騰など外部環境も上昇を後押しし、4月下旬には11年ぶりの高値27.41セントまで値を伸ばしました。その後、一時はブラジルの好調な生産状況を背景に供給懸念が後退し、軟調に推移したものの、8月下旬にインドの砂糖輸出制限の見通しが強まり、供給懸念が再燃したため上昇に転じ、結局26.27セントで当第2四半期連結累計期間を終了しました。

国内市中価格（日本経済新聞掲載、上白大袋1kg当たり）は、期初227円～229円で始まりましたが、海外粗糖相場の高騰や海上運賃の上昇、急激な円安の影響を受けた結果、7月に239円～241円に上昇し、そのまま当第2四半期連結累計期間を終了しました。

精糖およびその他糖類など国内販売では、人流回復による需要回復が期待されたものの、インバウンドや観光需要等についてはコロナ禍前の水準に至らず、家庭用・業務用製品とも販売量は低調に推移しましたが、実勢を踏まえた適正価格での販売に努めた結果、売上高は前年同四半期を上回りました。

以上の結果、砂糖事業全体の売上高は14,593百万円（前年同四半期比17.2%増）、セグメント利益は919百万円（前年同四半期比58.0%増）となりました。

バイオ事業

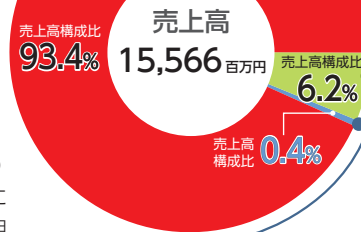


オリゴ糖部門は、前期まで「オリゴのおかげ」シリーズが健康志向の高まりやTV特需等の影響を受け好調に推移していたものの当期は需要が一服し、低調に推移しました。8月下旬以降、「オリゴのおかげ」メインキャラクターとして美容家のIKKO氏を起用、TVCMや新聞広告、SNSを通じて積極的な販促活動を行い、需要は回復基調に転じましたが、売上高は前年同四半期を下回りました。

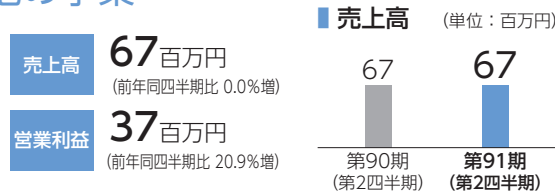
サイクロデキストリン部門は、一部ユーザー向け製品の販売が好調であったため、売上高は前年を上回りました。

ビーツ部門は、ECサイトでの販売を中心に展開し、売上高は前年を上回りました。

以上の結果、バイオ事業全体の売上高は964百万円（前年同四半期比4.3%増）、原材料コスト等の上昇に伴いセグメント利益は211百万円（前年同四半期比11.3%減）となりました。



その他の事業



その他の事業につきましては、ニューESRビル事務所の一部賃貸等を行い、所有不動産の活用にも努めた結果、売上高は67百万円（前年同四半期比0.0%増）、セグメント利益は37百万円（前年同四半期比20.9%増）となりました。

株主アンケート結果

2023年6月に実施した「株主アンケート」におきましては、数多くの株主様よりご回答を頂戴いたしました。

ご回答いただきました株主の皆様におかれましては、お忙しい中ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

なお、頂戴いたしました株主様からの貴重なご意見・ご要望等につきましては、今後の経営やIR活動等の参考にさせていただきます。

以下に、今回の「株主アンケート」の結果についてご報告させていただきます。



「株主アンケート」概要

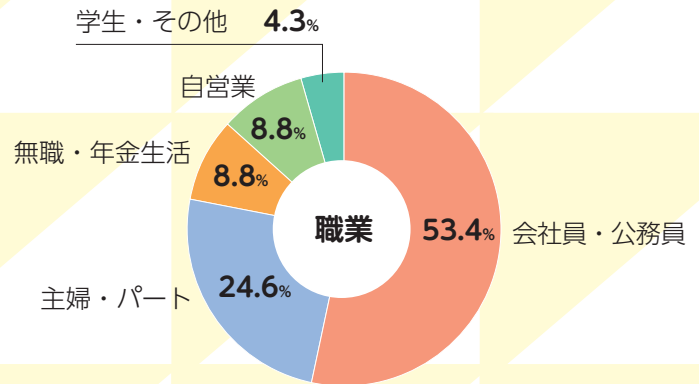
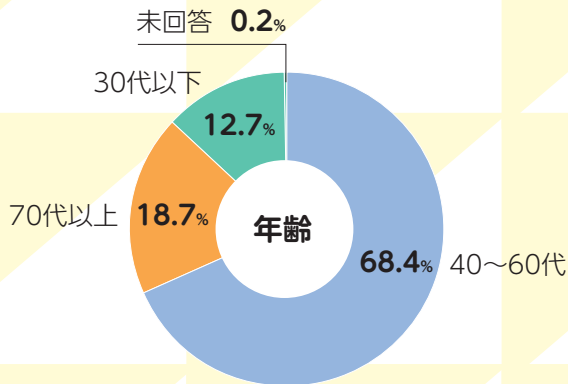
アンケート方法
WEBでのアンケートを実施
（「中間株主通信」に概要を掲載）

アンケート対象者
2023年3月31日時点
株主名簿記載の株主様

アンケート対象人数 11,411名

アンケートご回答数 3,759名

アンケートご回答率 32.9%



株主様からの声

健全な経営、安定的な成長に期待。



新商品・新規事業に期待しています。



株主優待の内容を変更し、
オリゴのおかげを増やしてほしい！



人工甘味料に負けず砂糖の大切さを
強く訴えていただきたいです！

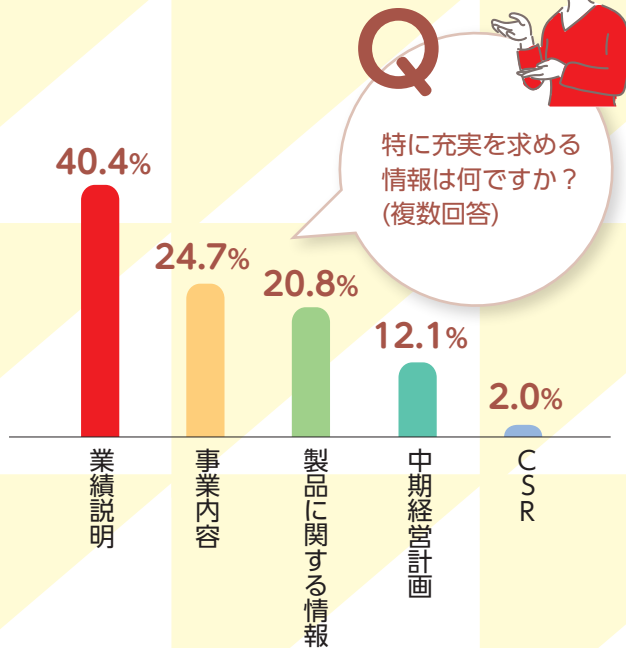
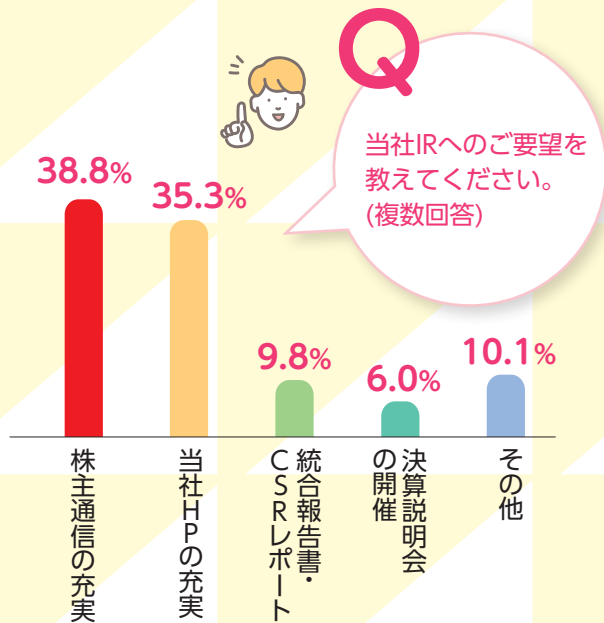
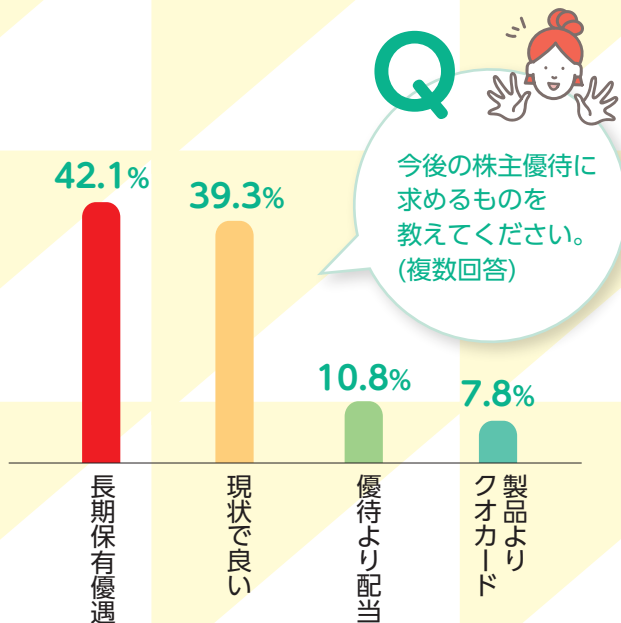
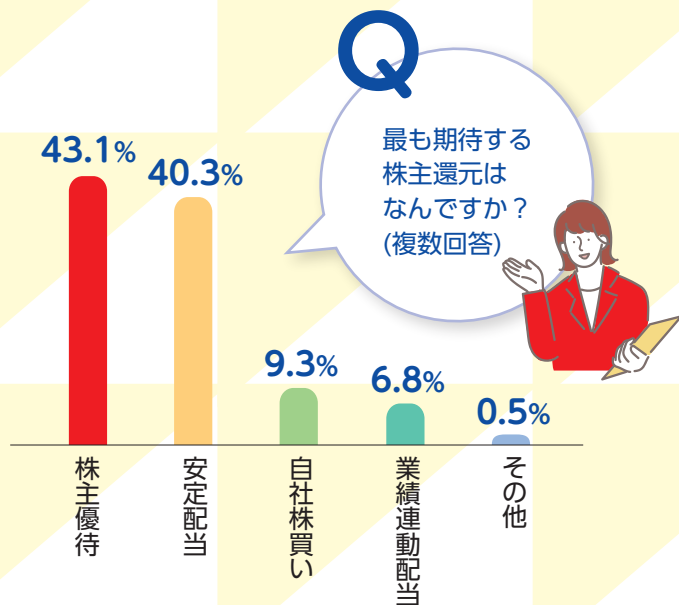


株主優待の長期保有
優遇制度の導入を！



利益に見合う増配を希望します。





新製品のご紹介

『オリゴのおかげ プレミアム30』



おかげさまで長年にわたりご愛顧いただいております『オリゴのおかげ』シリーズに、この度新たな製品『オリゴのおかげ プレミアム30』が加わりました。

『オリゴのおかげ』のオリゴ糖含有量(関与成分)を30%向上し、トクホの整腸作用に、新たな価値“カルシウム吸収促進”を付加しております。是非ご賞味いただけますと幸いです。

オリゴのおかげ
通常タイプ



プラス30%の
新たな力



オリゴのおかげ
プレミアム30



300g



500g

オリゴのおかげ
プレミアム30



- ✓ 乳糖果糖オリゴ糖含有量(関与成分量) 30%アップ(オリゴのおかげ比)
- ✓ 日本人に不足しがちなカルシウムの吸収を促進
- ✓ 一日当たりの摂取量を低減“一日に必要な量は、たったの8g”
- ✓ 摂取カロリーを低減“カロリーはお砂糖の約45%OFF”

食生活は、主食、主菜、副菜を基本に、食事のバランスを。

許可
表示

- オリゴのおかげ
乳果オリゴ糖を主成分とし、腸内のビフィズス菌を適正に増やして、おなかの調子を良好に保つ食品です。
- オリゴのおかげ プレミアム30
乳果オリゴ糖を主成分とし、腸内のビフィズス菌を適正に増やして、おなかの調子を良好に保つとともに、カルシウムの吸収を促進する甘味料です。

会社概要

CORPORATE INFORMATION

商 号	塩水港精糖株式会社 ENSUIKO SUGAR REFINING CO.,LTD.
本 社	東京都中央区日本橋堀留町二丁目9番6号 03-3249-2381(代)
創 立	明治37年2月
設 立	昭和25年7月
資本金	17億5,000万円
事業所	糖質研究所 関西営業所 工場 / 横浜共同生産工場(太平洋製糖株) 大阪共同生産工場(関西製糖株)
関係会社	(株)パールエース、(株)パールフーズ、太平洋製糖株、 関西製糖株、南西糖業株、(株)ナルミヤ
株式上場	東京証券取引所スタンダード市場
主要商品	精製糖(グラニュー糖、上白糖、三温糖、液糖他) 乳糖果糖オリゴ糖 (オリゴのおかげ、オリゴのおかげダブルサポート) サイクロデキストリン (デキシーパール、イソエリート、デキシーエース他) サラシア属植物エキス末 ビーツ関連商材

取締役及び監査役

代表取締役会長	久野 修慈	取 締 役	濱保 健一
代表取締役社長	木村 成克	取 締 役	小松 孝之
専務取締役	酒井 英喜	取 締 役	三和 彦幸
常務取締役	伊藤 哲也	取 締 役	田畑 貴史
常務取締役	波多野 雅	取 締 役	加藤 敦広
常務取締役	丸山 弘行	常 勤 監 査 役	高野 明子
常務取締役	小田 俊一	常 勤 監 査 役	山下 裕司
取 締 役	杉山 拓也	監 査 役	渡部 以光
取 締 役	和田守 真	監 査 役	金澤 賢一
取 締 役	及川 智明		

株式情報

STOCK INFORMATION

(2023年9月30日現在)

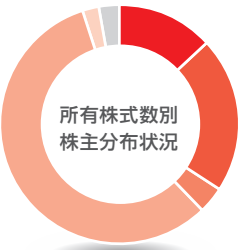
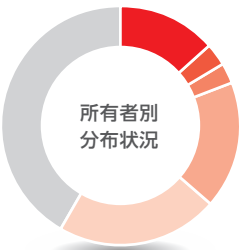
株式の状況

● 発行可能株式総数	80,000,000株
● 発行済株式の総数	35,000,000株 (自己株式7,620,677株を含む。)
● 当第2四半期末株主数	11,235名

大株主

No	株主名	所有株数(千株)	持株比率(%)
1	大東製糖株式会社	4,060	14.83
2	日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,527	5.58
3	株式会社みずほ銀行	1,353	4.94
4	三菱UFJ信託銀行株式会社	603	2.20
5	株式会社榎本武平商店	550	2.01
6	大東通商株式会社	500	1.83
7	株式会社日本カストディ銀行(信託口)	382	1.40
8	東京海上日動火災保険株式会社	340	1.24
9	紀岡 直樹	300	1.10
10	JPモルガン証券株式会社	235	0.86

(注) 持株比率は自己株式(7,620,677株)を控除して計算しております。



株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日～翌年3月31日
- 利益配当金の株主確定日 毎年3月31日および中間配当の支払いを行うときは9月30日
- 基準日 定時株主総会については3月31日
上記の他必要がある場合は予め公告して臨時に基準日を設けることがあります。
- 定時株主総会 毎年6月
- 公告・IR情報掲載URL <https://www.ensuiko.co.jp/>
- 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内1丁目3番3号
みずほ信託銀行株式会社
- 事務取扱場所等

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)
郵便物送付先	お取引の証券会社になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話でのお問い合わせ先		0120-288-324 (フリーダイヤル) (土・日・祝日を除く9:00～17:00)
各種手続お取扱店 (住所変更、株主配当金受け取り方法の変更等)		みずほ信託銀行 本店および全国各支店 ※トラストラウンジではお取り扱いできませんのでご了承ください。
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行およびみずほ銀行の本店および全国各支店	
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・各種手続お取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買は出来ません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。

株主優待情報

決算期末(3月31日)現在の株主の方に対し、年1回当社製品を以下の基準により送付いたします。

対象株主

毎年3月31日現在の株主名簿に記載または記録された1,000株以上を保有されている株主様。

送付時期

毎年7月上旬に送付を予定しております。

送付先

毎年3月31日現在の株主名簿に記載または記録された住所に送付しております。

ご優待の内容

2023年は、1,000株以上当社株式を保有されている株主様に対して、当社製品「オリゴのおかげ(300g×4本)」と「奇跡の野菜といわれるビーツをドリンクにしました(100ml×6本)」(3,500円相当)をセットでお届けいたしました。



創業明治37年
塩水港精糖株式会社
ENSUIKO SUGAR REFINING CO., LTD.